

女性学研究センター年次報告・2005年度

著者	伊田 久美子, 田間 泰子, 伊藤 ゆきこ
引用	女性学研究. 2006, 13, p.161-166
URL	http://hdl.handle.net/10466/10111

女性学研究センター年次報告・2005年度

1. 運営体制

今年度から、女性学研究センターは大阪府立大学人間社会学研究科女性学研究センターとなり、主として運営にあたる研究員は、主任と副主任による2人体制となった。年間事業や予算の基本方針は所長・2名の研究員と学内共同研究員によるセンター会議で審議し、さらに女性学研究センター運営委員会での審議を経て、運営を行っている。

所 長 黒田研二（人間社会学研究科長）

主 任 伊田久美子

副 主 任 足立眞理子（前期）、田間泰子（後期）

運 営 委 員 （所長・主任・副主任のほか）

ケイン・ケビン（言語文化学科）、秋庭裕（人間科学科）、菰
渕緑（社会福祉学科）

共同研究員 青木賜鶴子・西田正宏（言語文化学科）

浅井美智子・谷村覚・福田珠己・村田京子・森岡正博・渡辺
博明（人間科学科）

山中京子（社会福祉学科）

熊安貴美江・西山淳子・前川真行（総合教育研究機構）

学外研究員 木村涼子（大阪大学）

2. 授業

今年度から大阪府立大学としての新カリキュラムが開かれたので、授業はこの新カリキュラムと大阪女子大学の旧カリキュラムの双方を開講している。また、新カリキュラムとして大学院における学際演習を担当し、その半期をセンターの公開講座と連携する内容で展開した。

・新カリキュラム

大学院科目（人間社会学研究科）

「学際現代人間社会論演習Ⅰ」（通年4単位。伊田久美子・田間泰子・森岡正博）

「ジェンダー特論1A」「同1B」（半期2単位。伊田久美子）

「同2A」「同2B」（半期2単位。足立眞理子・田間泰子）

教養科目（人間社会学部）

「ジェンダー論への招待」（前期2単位。浅井美智子・足立眞理子・伊田久美子・木村涼子・児島亜紀子・山中京子）

「ジェンダー論入門」（後期2単位。浅井美智子・伊田久美子・熊安貴美江・田間泰子）

・旧カリキュラム（人文社会学部）

「女性学演習Ⅰ」（前期2単位。足立眞理子）

「女性学演習Ⅱ」（後期2単位。田間泰子）

「女性学概論Ⅰ」（前期2単位。足立眞理子）

「女性学概論Ⅱ」（後期2単位。萩原弘子）

3. 公開講座

女性学講演会「教育とジェンダー」（2005年7月20日）木村涼子

この授業は、「ジェンダー論への招待」の特別授業として行われた。

4. 図書・文献資料の収集

引き続き、国内外の資料および外国語雑誌を購入した。センターで今年度に講演していただいた講師の方々の関連図書を購入した。図書館司書の方々のご協力に感謝する。

5. 女性学研究コロキウム

第1回（2005年7月16日）

「ジェンダー予算」

報告 村松安子（東京女子大学名誉教授）（本誌掲載論文参照）

第2回（2005年12月18日）

「ジェンダーの政治に賭けられているもの — 憲法24条の可能性 —」

報告 岡野八代（立命館大学助教授）（本誌掲載論文参照）

「24条 — 議員として、同性愛者として —」

報告 尾辻かな子（大阪府議会議員）（本誌掲載論文参照）

第3回（2006年3月8日）

「視覚情報とセクシュアリティ — 視覚障害者の性概念形成過程に学ぶ —」

報告 佐藤（佐久間）りか（お茶の水女子大学ジェンダー研究センター
研究協力員）

6. 女性学連続講演会、連続セミナー

第10期「ジェンダー論の現在」

（2005年11月19日～12月17日の土曜日もしくは日曜日、全5回）

伊田久美子「労働論とジェンダー」

姫岡とし子（筑波大学）「歴史研究とジェンダー」

落合恵美子（京都大学）「家族とジェンダーをめぐる政治：現代日本の
岐路」

酒井隆史（大阪府立大学）「文化論とジェンダー：男性の視点から」

足立真理子（お茶の水女子大学）「経済学とジェンダー」

各講演会終了後、連続講演会参加者のうちおよそ40名が参加して、セミナーを実施した。セミナーへの参加希望者が非常に多くセミナー室の限界まで受け付けたが、お断りした方々も多かった。皆さまの熱意に感謝したい。なお今年度のセミナーの人数や進行については検討し、来年度のセミナーに活かしたいと考えている。

7. 国際交流事業

今年度は第3年めにあたり、事業報告集を別途に刊行した。内容は下記のとおりである。

『大阪女子大学（大阪府立大学）女性学研究センター 国際交流事業報告書
アジアの女性政策に関する研究 —1990年代以降の韓国を中心に—』

I. はじめに —女性学研究センターの国際交流事業（3ヶ年）について

II. 国際交流事業シンポジウム報告

東アジアの女性政策主流化に向けて —韓国と日本の政策比較を中心に—

韓国女性政策の現況と課題

キム・ソンウク

1990年代以降の韓国女性政策の変化とその背景 —生活者の視点から—

田端 かや

日本の女性政策の現状と課題 —内閣府男女共同参画報告を踏まえて—

伊田久美子

日韓の状況の類似と政策動向の違い

江原由美子

III. 韓国聞き取り調査報告

韓国女性政策の歩み

キム・ソンウク（梨花女子大学法学部教授）

韓国女性政策の現状

チョ・ジョンア（女性部長官政策補佐官）

韓国女性運動の動向

チョ・ヨンスク（韓国女性連合政策室長）

IV. 論文翻訳

女性政策と行政組織（『梨花法学叢書』より）

キム・ソンウク（日本語訳・田端かや）

V. 第9回国際女性学会（2005年6月開催、韓国女性学会・梨花女子大学主催）報告

国際女性学会の意義

伊田久美子

第9回国際女性学会にみる女性学と女性施策の流れ

熊安貴美江

8. 男女共同参画政策推進のための研修事業

シンポジウム「男性にとっての男女共同参画」（2006年2月4日）

報告 細谷 実（関東学院大学）

「世紀転換期の男たち —『男は男らしく、女は女らしく』とおっしゃ
いますが…」

（本誌掲載論文参照）

森岡正博（大阪府立大学）

「『男であること』と男女共同参画」

（本誌掲載論文参照）

海妻径子（岩手大学）

『男女共同参画』における『男性にとっての利益』?」（本誌掲載論文参照）

☆☆☆

今年度は、先にも述べたように男女共学の大阪府立大学女性学研究センターとして、新体制で臨みました。その成果として、昨年度までとは違った試みを行ったことを報告しておきたいと思います。

一つは、研修事業において「男性にとっての男女共同参画」を企画したことです。このシンポジウムには70名を超える参加者を得ました。フロアを交えた活発な討議からは、このテーマが今後さらに深められ、広められる必要のあることがひしひしと感じられました。事後アンケートにおいても、今後このようなテーマで企画を望む声が聞かれています。

また、大学院の学際演習を利用して、男女大学院生が連続講演会の内容を事前に学習し、講演会やセミナーに参加・協力しました。このことは院生たちにとっても新鮮な学びの体験になったことと思われませんが、センターとしても共に学ぶ良い機会となりました。この試みは、来年度にも続ける予定です。

そのほか、今年度から学年進行する新カリキュラムは、初めての共学の科目群となります。センターとしては、旧府立大学の先生方の力強い協力を新たに得て、いっそう充実した授業内容を提供できるよう励みたいと思います。

ところで、今年度は年度途中で研究員の交替がありました。3年半のあいだ専任研究員として勤めて来られた足立真理子さんが9月30日付けで退職され、お茶の水女子大学ジェンダー研究センターに赴任されました。これまでのセンターでのご活躍に感謝するとともに、新しい職場でのさらなるご発展を期待したいと思います。足立さんがセンターを去られたことは誠に残念ですが、これをむしろ良い契機と捉え、研究センター同士として交流を深めてゆきたいと考えています。

その後任としては、10月1日付けで田間泰子さんが大阪産業大学から赴任しました。また秋からは、これまで事務を担当してきました伊藤ゆきこが週

4日の勤務となり、センターの体制をさらに充実できることとなりました。府立大学への統合と研究員の年度途中の交替のため、大変な1年でしたが、学内外の多くの方々のご協力に支えられて無事に諸事業を執り行い、この『女性学研究』を刊行することができました。この場を借りて、すべての関係者の皆さまに感謝の意を表したいと思います。

来年度も、活動の一層の充実を目指していきたいと思っております。皆さまにはセンターの歩みに今後ともご同伴くださいますよう、宜しくお願い申し上げます。

(伊田久美子、田間泰子、伊藤ゆきこ)